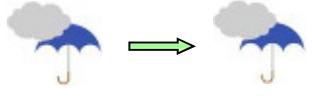
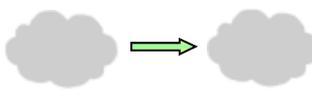
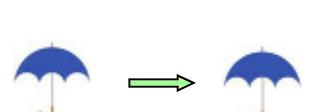
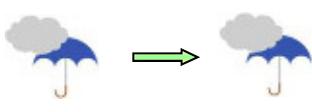


【産業動向概要】

産業全体 	<p>8月を中心とした県内経済は、輸出は回復の兆しがでてきたものの弱めの動きが続き、生産活動も横ばい圏内の動きで推移している。雇用・所得環境は改善の動きが鈍化し、個人消費も持ち直しの動きが緩やかになってきている。県内経済は海外経済の減速や円高などにより足踏み状態となっている。</p>	
観光・旅館業 	 <p>夏休み期間の伊豆地区の宿泊客は、震災や原発事故の影響を受けた昨年比では増加も、震災前の水準を回復するには至っていないとみられる。一方、海水浴客も下田、熱海などを中心に前年実績を大幅に上回ったが、震災前の水準は回復出来ていない模様。</p>	
紙類 	 <p>県内メーカーが生産する再生紙物トイレットペーパーの価格は横ばい。原料古紙価格は下落したが在庫の拡大もあり生産環境は厳しい。段ボール原紙は最終製品の価格引上げが進まない影響で、製品値下げの圧力が波及する懸念がある。</p>	
水産業 	 <p>主要漁港全体の水揚量は前年比▲19.6%減。うち焼津港の水揚量は、主要魚種であるカツオ類及びマグロ類の減少により全体では前年比▲22.3%減。一方、魚価は、カツオ類が単価を上げ、全体の平均単価は前年比7.4%上昇した。</p>	
一般機械（主要） 	 <p>金属工作機械は今年5月まで7ヵ月連続して対前年比プラスであったが、6月、7月と一転して10%を超えるマイナスとなった。一方、金型は今年に入り一進一退で推移している。欧州やアジアの需要減速に加え、中国需要も回復がやや厳しいことが予想され、当面不透明な状況が続く。</p>	
木材 	 <p>県内の新設住宅着工は増加しているが、輸入材の出荷量が多く国産製材品需要は低調なことから、製材品の県内生産量は減少傾向が続く。また製材品価格も弱含みで推移。</p>	
缶詰 	 <p>水産缶は主力のツナ缶の生産量は備蓄用需要の一巡や原料価格の高騰により、6ヵ月連続で前年比マイナス。農畜産、飲料缶類の生産量も4四半期連続で減少している。</p>	
楽器 	 <p>主力のピアノは、生産台数、販売台数ともに前年実績を下回った。生産では内需を中心とした縦型、販売では輸出が低調であった。電気・電子ピアノは、生産は引き続き堅調に推移したが、販売は内需の減退に伴い低調。電子オルガンは、生産・販売とも堅調に推移。電子キーボードは生産・販売ともに低調。</p>	

輸 送 用 機 器			遠州地域の二輪車生産台数は、国内向け、輸出向けともに前年実績を下回り低調に推移。一方、自動車部品生産金額（県内）は好調な自動車販売に支えられ、13ヵ月連続で前年を上回って推移している。しかし円高による自動車メーカーの海外進出の動きや、エコカー補助金終了後の反動減など中小・零細部品メーカーの先行きに不透明感が広がっている。
	二輪車 	自動車部品 	

				
明　　る　　い	やや明るい	停　　滞	やや不振	不　　振

《産業別天気マークの推移》

 明るい
  やや明るい
  停滞
  やや不振
  不振

調査対象時期 (公表時期)	10/7 (10/9)	10/10 (10/12)	11/1 (11/3)	11/4 (11/7)	11/8 (11/10)	11/11 (12/1)	12/1 (12/4)	12/5 (12/7)	12/8 (12/10)
概況 		→							
観光・旅館業 		→		→				→	
紙類 		→		→					
水産 		→				→			
一般機械(主要) 		→			→			→	
木材 		→							
缶詰 			→						
楽器 			→			→		→	
輸送用機器 			→			→			